

西江大学校 短期語学プログラム ～2011. 3. 1～3. 26～

明治大学 商学部 2 年 28 組
大場 美保

1. はじめに

今回の語学留学をする前、留学中、留学後について書いていこうと思います。

私は大学の第2外国語でもともと朝鮮語を履修しており、韓国という国にも関心があったために、この留学プログラムを利用しようという考えに至りました。「韓国語は習得したくても、留学までは…」という考えの人はとても多いと思います。わたしもそのうちの一人でした。しかし、今回留学してみて感じましたが、韓国語履修者、または、韓国に興味のある方はたとえ短期であってもぜひとも一度は留学という経験をしてみることをお勧めします。その理由についてはこの後追ってお話していきます。



←留学の
スタート

(左2番目、わたし)

2. 韓国での留学生活

・ホテルについて

わたしたちは男性3人、女性4人の計7人のプログラムであったために、男性は3人部屋、女性は2人部屋で生活していました。1か月の共同生活であるために、二人部屋だと多少は不便もあったかもしれないが、今回の留学における私たちの最大の目的が韓国語の語学勉強であったために、どの人も文句ひとつ言わずに困った時は助け合いながら生活していくことができたと思います。語学研修プログラムという名目で集まったメンバーだったので、全員勉強を一生懸命し、毎日意欲的に勉強に臨んでいたと思います。

・西江大学校韓国語教育院

わたしは今回、西江大学校韓国語教育院の全6級までのレベルのうち、2級で勉強させていただきました。わたしのクラスは全部で15人がいて、国籍別にみると、日本人4人、カナダ人3人、アメリカ人3人、中国人2人、フィリピン人1人、スイス人1人、イスラム人1人というクラスでした。クラスメイトのほとんどは大人の人で、仕事をしながら語学

院に通っている人が多く、私のように大学から留学で来ている人は3人だけ、私が最年少でした。

はじめての授業の日は、とても楽しみである一方、とても緊張していました。クラスにだんだん生徒たちが集まってくると、新学期であるはずが、「オー!久しぶり!ここに座りなよ!」といった会話がが多く、私は「新学期で新しいクラスのはずなのに、なぜみんなすでに友達なのだろう…韓国語を勉強しに来ているのに、会話が英語だらけ…私は友達になれるのか」と、とても不安になったのを覚えています。また、初日は緊張していたということもあったのか、先生のお話する言葉がいまいち理解できず、「2級は私には無理なのではないか…」という思いで、とても不安になりましたが、明治大学担当のチョン先生とも面談をし、親身になって相談に乗ってもらえたので、自信をもつことができ、結局2級も十分理解できるようになり、楽しい毎日を送ることができました。クラスの人ですでに知り合いだったというのは、西江大学の韓国語教育院の1級から勉強していて、そのまま2級に上がってきた人が数名いたからでした。その人たちとも次の日には仲良くなり、最年少だったということもあったのか、みなさんに親切にしてもらい、とてもかわいがっていただきました。1日4時間、①쓰기(ライティング)②말하기(スピーキング)③말하기(スピーキング)④읽기(リーディング), 듣기(リスニング)という時間割で週5回の計70時間のプログラムは、本当に毎日充実しており、あっという間に過ぎていき、最後のほうは、一日いちにち時間が足りないという思いで焦っていました。1か月では足りない・もっと韓国で勉強したいという気持ちでいっぱいでした。

3. 放課後の生活



↑ language exchange のお姉さん方と最後のお別れ食事会
(前列左端、わたし)



↑ 木曜日の勉強会風景
(右3番目、わたし)

学校の授業ももちろん楽しく過ごしていましたが、私の今回の留学で一番心に残っているのは、language exchange の언니(お姉さん)と過ごした時間です。わたしの留学生活が充実していたのは、언니がいたからだと思います。わたしの language exchange の언니は、西江大学で韓国語の4級を教えている先生でした。先生をしているために、毎日仕事があり、忙しいなか間を割いて私のためにいろいろな機会を与えてくれました。会う日には不定期でしたが、多い週で週に4回 language exchange をしました。언니は日本の大阪の大学に通っていたので、日本語のできる人でした。はじめは緊張しましたが、日が経つに

つれ、どんな話も出来る仲になりました。毎週木曜日は、언니の友達弘益大学校で先生をしている方と、西江大学校で언니が韓国語を教えていた日本人の方2人と、韓国人で日本語のできる方1人と、私の6人で韓国語と日本語を使う時間を決めての討論をしながらの「勉強会」をしました。日本人のお姉さん方は、2級から西江大学校で勉強をして、現在4級を勉強している方々でした。お姉さん方は、日本では看護師さんをしており、韓国が大好きで韓国語を勉強したいという気持ちから、仕事をいったん辞めて韓国へ学に来ている方々でした。私は、仕事に就いてから自分のやりたいことのために異国で生活していこうという、やる気と勇気がすごいなと思いました。私は韓国語の勉強を続けたくても仕事まで辞めて行くかと聞かれたら、多分できないことだと思っていました。しかし、実際に仕事を辞めて、韓国で一人で生活をしながら、韓国語も勉強しているお姉さん達の姿は、とても輝いていて、充実感が漂っていました。はじめは自分にはできないことだと思っていたことも、わたしもやりたいことに時間を使ってもいいのではないかと、人生1度しかないのだから、やりたいことに必死になってもいいのではないかと、と今までは怖くてできなかったことに対しても、やってみたくて声に出して言えるようになりました。しかし、私は現在大学3年生であり、就職活動があるために、1年留学をするにはもっとよく考えなくてはなりません。この留学で将来やりたいことが見えてきましたが、現実問題では、その仕事は余り需要がないことや、自分の位置を確立するまでには何十年とかかることを考えると、難しいことなのかも知れません。将来について特に固まっていなかった私が、自分の将来について考えられるようになったこと・夢に向かって頑張りたいと思えたのは、この留学で出会ったたくさんの方々のおかげだと思います。他の人にはできない体験と、他の人にはない出会いがあり、とても幸せだと感じています。わたしがこの留学をきっかけに、もっと韓国語を話せるようになりたいと思ったのは、今回はまだ韓国語があまりできず、自分の意志や意見をしっかり韓国語で伝えることができず、language exchangeで出会った方々に十分な感謝ができなかったことが本当に悔しかったからです。「もっと韓国語が話せたら…」という場面が本当に多かったのです。そのようなことから、私がもっと韓国語を話せるようになり、お世話になった方々に恩返しをしたいと思っています。今回の留学で出会った方々とは、生涯を通して仲良くしていきたいし、時間はかかるかもしれませんが、絶対に韓国語で感謝の気持ちを伝えて、今度は私が何かを与えることができたらと思います。授業だけではなく、このように language exchange もあったので、することがなく暇をするという日は一日もありませんでした。

4. 友人との時間

Language exchange の언니と同様、私たちの韓国留学には欠かせない存在であったソン君という明治大学の商学部28組で同じクラスだった友達がいます。ソン君は、明治大学で2年間一緒に勉強をし、今年の3月21日から徴兵のために韓国に帰って来ていました。わたしたちの留学最初の週末もソン君とソン君の高校時代のお友達のアヨンちゃん、明治大学でも同じクラスだった斎藤遼君、私の4人で昼食をした後、インサドン（仁寺洞）へ行き、観光し、その後は、63ビルに行きました。



←左から、遼君・ソン君・わたし・アヨンちゃん@仁寺洞

アヨンちゃんとはその日初めて会いましたが、ソン君のお手伝いもあって、とても楽しく過ごすことができました。わたしは、留学中韓国で携帯電話を持っていなくて、とても不便だったので、次の日もアヨンちゃんと会い、携帯電話のレンタルを手伝ってもらいました。週末はソン君もいたので、日本語と韓国語の両方で意思疎通ができたのですが、アヨンちゃんは全く日本語ができず、その日は韓国語でしか話すことができなかったのも、とても苦労しました。アヨンちゃんと話したいことや、携帯電話を作るのを手伝ってくれたお礼もしたかったのですが、私の韓国語では上手く伝わったのかわからず、とても申し訳ない気持ちになりました。それまでは、誰かしら日本語ができる人がいて、韓国語での会話でも簡単なやり取りだけで十分な生活をしていたので、韓国の留学生活ではその日初めて壁にぶち当たりました。自分の伝えたいことが伝わらないもどかしさと、親切にしてくれている人への感謝をなかなか伝えられないという申し訳なさ、もっと勉強しなくてはというやる気にさせてくれました。もし、明治から一緒に留学に行ったメンバーだけとしか関わりがなかったとしたら、もっと気持ちを伝えたい・もっと勉強しなくてはという気持ちも起きず、1か月の留学も苦痛だったかもしれません。その分、わたしはたくさんの人に出会え、たくさんの人たちに支えられてきたので、自分の目標を見失わずに高い意識を持ち続けて勉強できたと思います。



←↑左からミリさん・わたし・ヘジさん
左：ミョンドン（明洞）大聖堂にて、
右：Red Mangoにて

→ スンデ体験（腸詰。韓国の伝統ソーセージ）



二週目の週末は、明治大学の FFF というサークルで知り合った韓国から日本に語学留学に来ていたキム ミリさんとキム ヘジさんとミョンドンで会いました。二人は韓国の大学で日本語専攻なので、とても日本語が上手でした。そのため、私が「これは韓国語でなんて言うの?これはどういう意味?」と聞くとわかりやすく教えてもらうことができたので、とても勉強になりました。この日はミョンドン大聖堂に行きました。そこではちょうど結婚式が行われており、大変貴重な場面に立ち会うことができました。その後に、カフェに入り、二人の日本語の授業課題の手伝いをしました。彼女たちは、日本語の授業で「101 回目のプロポーズ」の小説を日本語訳し、音読するテストがあったようで、私が本文を音読したものをふたりは録音機器で録音するというのをしました。「101 回目のプロポーズ」は有名な作品ではありますが、学校の授業で日本語訳して音読するというのは、高度な授業だなと思い、とてもびっくりしました。同じ大学生でも、私たちは文法の教科書の 1 章を 2 週に渡って学んだりするので、日本の授業とはだいぶカリキュラムが違うんだなと思いました。わたしたちが韓国の小説を韓国語から日本語に訳すという課題が与えられたら、どんなに時間がかかるのだろう…と思い、語学勉強のレベルの差を感じました。カフェで日本語と韓国語の勉強をした後に、シンチョン（新村）にある私たちの生活するホテルに行き、夕飯を食べることになりました。その日は、韓国の食に触れようということで、チキンの出前をしてみようかという話が出たのですが、あいにく売り切れで出前ができなかったので、屋台のものを食べてみることにしました。屋台では、スンドェとトッポキとキンパブとレバーのようなものを買い、ホテルで食べました。私たちの生活するホテルの周りには、たくさんの屋台が出ていましたが、日本人だけでは買う勇気がなく、食べられないでいたので、いい機会でした。怖かったスンドェも食べることができました。日本には屋台文化がないので、屋台で立ちながら食事をしたり、夕飯のおかずを屋台で買ったりすることもなく、とても新鮮でした。わたしは、野外で作ったものを野外で食べるということにまだまだ抵抗がありますが、韓国ではトッポキやおでん、スンドェなど、外で食べることは日常でありふれたことなので、食文化にも触れることができ、よかったと思っています。その日はミリさんが泊まっていき、私たちが朝ごはんは毎日マフィンやヨーグルトで済ませているという話を聞き、翌日の朝食をミリさんが作ってくれました。私は、韓国の案内をしてもらい学校もある中で、時間を作って会ってただけでもうれしいことなのに、さらに朝食まで作ってもらうことができたので、優しさにとっても感動しました。その時、もしミリさんやヘジさんが日本語を勉強したり、また日本に来る機会があったりすれば、ぜひ力になりたいし、わたしも出来る限りの協力をしたいと思いました。異国の地で生活するというのは、自分でも気がつかないストレスや疲れがあったりしますが、ミリさんやヘジさんのような友達の存在は、わたしの大きな支えになりましたし、韓国での生活が楽しいと感じさせてもらえたので、心に余裕も出てきました。そういった点でも、わたしは韓国に友達がいてよかったなと思います。本当にいい友達に恵まれたと思います。





↑ 蔚山(ウルサン)の海



↑ ソン君とのお別れ@釜山(プサン)駅

3週目の週末は、蔚山にあるソン君の実家へ遼君と一緒に行きました。私は今までミョンドンやシンチョンのようなソウル市内にしか行ったことがなく、移動もすべて地下鉄で済ませていたので、蔚山や釜山に行くことをとても楽しみにしていました。蔚山にはKTXに乗って行きました。KTXとは日本で言う新幹線のようなものです。KTXで蔚山までは約2時間くらいでした。蔚山につくとソン君が出迎えてくれました。蔚山駅からバスでソン君のお家の近くまで行くと、ソン君のお父さんとお母さんが車で迎えに来てくれていました。そこから車で、夕食を食べに行きました。その日はソン君一家のいきつけの焼肉屋さんで食事をしました。私が緊張でがちがちに固まって何も話せないでいると、ソン君のお父さんもお母さんも日本語が堪能で、私たちに日本語で話しかけてくれました。韓国では焼肉の時に一緒にご飯を食べません。日本人はご飯が欲しいと思うかもしれませんが、韓国では焼肉の後のチゲと一緒に白いご飯を食べます。韓国の食事では、キムチやナムルなどのおかずが小皿でテーブルいっぱい用意されているのですが、人の前にある料理に手を伸ばすのはとても気が引けることですが、韓国では「ちょっとすみません」などと言かけると、手を伸ばしても遠くの料理を食べることができるそうです。むしろ、遠慮をして何もたべない方が相手に気を遣わせてしまい、食事が楽しくないのかな・美味しなかったかなと思わせてしまうようです。食事を終えてソン君のお家に行くと、お母さんが食後の散歩にでも行ってらっしゃいと言ったので、3人で近所に散歩に行きました。蔚山は海が近いということもあり、大きな工業地帯でした。しかし、工場だけではなく自然もたくさんあり、とてもきれいな所でした。近所を散歩した後、海に行くことになりました。その日は天気もよく月がとてもきれいでした。ソン君の高校時代には、学校の自習をサボって友達と海で遊ぶこともあり、海にはよく来ていたようでした。夜に海に行ったことはなかったので、とてもきれいで感動しました。海の周りにはお刺身屋さんがならんでおり、そこで食べるお刺身はとても美味しいんだそうです。海辺を散歩した後、タクシーで家まで帰ったのですが、このタクシーの運転がとても荒く、びっくりしました。夜で人通りや車も少なかったのですが、タクシーの運転手さんは平気で信号無視・スピード違反でした。通常130キロ、カーブも90キロ出ていました。韓国のタクシーとバスの運転の荒さについては噂でも聞いてはいましたが、予想を超えるものでびっくりしました。家に帰ると、ソン君の弟の帰りを待ちました。ソン君が徴兵に行くので、弟さんも大学のあの大邱(テグ)から一時帰省するとのことでした。私たちも部屋に入り、寝ると、夜中に体がかゆいと思い、起きてしまいました。湿疹のようになっていたので、何か体に合わないものを食べたのか、ストレスで湿疹が出たのかといろいろ考えているうちに、不安になってきてしまい、ソン君を起こして腕や足の湿疹を見てもらいました。すると、「虫さされ」

だということがわかりました…。まだ寒いので、虫さされはないと思いましたが、韓国はオンドルで部屋も暖かいので蚊もいたのかもしれませんが。韓国では蚊にさされる人を「血が甘い」というんだそうです。お母さんにも「おいしい血だからさされるのよ」などと言われながら、これもいい経験になったなと思っていました。

次の日はソン君のお父さんの出勤を見送ることから始まりました。韓国は父母への礼儀がきちんとしているという話を聞いていたので、何をすればよいのかはよくわかりませんでしたが、お父さんの出勤は見送ったほうがいいのでは…?と思い、毎日見送りをしました。この日は、ソン君の弟とソン君と遼君とわたしの4人で慶州(キョンジュ)に行きました。まず、ソン君の弟の運転で蔚山の人が遠足などでよく行く景色のいい所へ連れて行ってもらいました。崖のようになっており、アップダウンが激しい所ではありましたが、景色が本当に綺麗でした。次に、車でドライブをしながらキョンジュを目指しました。キョンジュでは世界遺産である仏国寺(ブルクッサ)に行きました。私はゼミで観光を学んでおり、世界遺産検定も取っていたので、とても勉強になりました。そのあとはソン君の運転でお家まで帰りました。家に帰ると、夕飯の時間になっており、この日は家族でお刺身を食べに行きました。食事をした後、帰省中のアヨンちゃんと合流し、お酒を飲みに行きました。そこでは、鳥の足の形が見てとれる食べ物が出てきました。日本では見ない食べ物にたくさん触れることができ、すべてがいい経験でした。韓国のお酒の飲み方である、「チャン」という、日本で言う乾杯のようなものを教えてもらいました。韓国では、一人が杯を持つとほかの人も杯を持って、「チャン」をするということになっているようです。他の人が持ったら自分も持つ、自分が持ったら他の人も持ち、乾杯をして飲むので、お酒のペースが速くなってしまうような気がしました。また、目上の人と「チャン」をして、その目上の人が一気に飲むと、下の人は必ず同じように一気に飲まなくてはならないので、韓国でのお酒の場は、一時も気が抜けないなと感じました。お酒を飲んだ後、4人でカラオケに行きました。韓国のカラオケは、日本の人数制とは違い、部屋数でお金を支払うようになっていようです。みんな歌が上手で、とても楽しい時間を過ごすことができました。カラオケが終わって、アヨンちゃんとは最後でした。韓国滞在中で、とてもお世話になり、年も同じで一緒にいてとても楽しかったのが、これが最後だと思うととても悲しくなりました。3週目にもなると、出会いより別れが多くなっていたような気がします。しかし、このように「ありがとう」の感謝の気持ちがあるからこそ日本での韓国語勉強の糧になり、今度会ったときには韓国語で話をしたいという思いがあるからこそ、勉強を続けていられるのだなと思います。一つひとつの出会いが私の韓国語勉強に影響を与えてくれています。

最終日は、釜山に行きました。釜山に行く前にソン君は次の日入隊のため、髪を坊主にしてみました。だんだんと入隊が近付いているのだということを実感しました。その日はあいにくの雨で、少し肌寒かったです。電車に乗って釜山まで行き、海雲台に行きました。そこには雨にも関わらず、たくさんの観光客がいました。APEC2005の会場となったところも見してきました。景色もとても綺麗で、晴れた日にまた行きたいと思いました。次に、釜山の中心街へ行き、昼食を取った後、釜山タワーに上りました。天気があまり良くなかったために、遠くまでは見えませんでしたが、とてもいい思い出になりました。ソウルまでの帰りは釜山駅からKTXで帰るため、ソン君とは釜山駅でお別れをしました。次の日から入隊するにもかかわらず、最後まで私たちと一緒にいてくれて、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。こんなにも一緒に時間を過ごした友達と、2年という長い期間会えなくなるのはすごく寂しいことでしたが、ソン君が懲役で頑張っている間に私たちも韓国語を一生懸命勉強して、2年後に会った時にソン君をびっくりさせられればと思います。日本には徴兵制がないために、このような別れを経験することがなく、友達と別れるということに慣れていなかったため、すごく悲しくなりました。明日から会えなくなるということが信じられず、春休みが終わって大学に行けばまた会えるのではないかな…という気持ちでした。ソ

ン君とはただのクラスメイトではなく、毎週月曜日の5限の時間に韓国語講座をしてもらったり、木曜日の6限の時間に韓国語を教えてもらったりしていたので、他の人よりお世話になっていた分、悲しみも大きかったです。ソン君の懲役の2年間の間に何もなく、無事に終えることだけを祈っています。

この留学プログラムでは、本当に人との関わりが私の韓国語習得への気持ちを強くしてくれました。私を支えてくれた人たちがいたからこそ、無事に1か月の留学を終えられたのだと思います。韓国語の能力以上に、人々の優しさと心の温かさを感じ、人生の宝物をもらったと思います。わたしにできることは、この経験が無駄にせず、人々からもらった優しさを忘れることなく、韓国語を一生懸命勉強し続け、いつか恩返しをすることだと思います。今回は与えられることばかりが多かったのですが、少しずつ返していけたらと思います。



←日本で韓国語を教えてくれていたジュヒョンオム (左手前),
今も Skype や FaceBook を使って韓国語でやりとりしてくれるウォンジュンオム (左奥),
真山 (右奥), わたし (右手前)

5. 西江大学校韓国語教育院

私が1か月韓国語を学んだ西江大学校韓国語教育院について紹介します。先ほども書きましたが、西江大学校の授業は1限が쓰기(ライティング)・2限、3限が말하기(スピーキング)・4限が읽기/듣기(リーディング・リスニング)という말하기(スピーキング)中心のプログラムでした。そのために、2,3限の会話の授業はひたすらクラスメイトと会話をするという授業形態でした。日本人の私たちには馴染みがなく、最初は戸惑うことも多かったのですが、クラスメイトが積極的に話している姿に刺激を受け、私もどんどん話かけるようになっていきました。はじめは、みんな韓国語知識があまりないために英語を使ってしまう人も多かったのですが、2週目にはみんななんとか知っている韓国語で会話をしようとして一生懸命でした。少し問題だったのは、同じ2級で勉強しているために、みんな分からないことがだいたい同じで、あやふやな韓国語でも「あ、これを言いたいのだろうな」「こう言っているのだろうな」と文章がきちんと出来ていなくても、フィーリングで会話を出来てしまうことです。先生が近くにいれば、直してくれることもありましたが、だいたいで会話が成り立ってしまっていたという部分もあります。休み時間になると、それぞれが持ってきたお菓子を分け合って一緒に食べたり、一緒に大学のカフェにコーヒーを買いに行ったりと、とても楽しい雰囲気のクラスでした。ある人は毎日バナナを3房位買ってきて、教室のみんなに配ってくれ、クラスの全員でバナナを食べていたこともありましたが。本当にユーモアあふれる人が多いクラスで、笑いが絶えない1か月でした。



←↑（上写真）みんなもらったバナナ食べています

また、印象に残っているのは、韓国滞在中に日本の東北・関東で大地震があった時のことです。その日は、授業が終わって明治大学の人と担当のチョン先生で南山韓屋村に行き、韓服体験をしていました。終わってホテルに帰ると、ソン君から電話があり、日本で大地震があったから実家に連絡を取るようと言われ、私の実家は東北だったので、とてもびっくりしていました。直接見てもいないので実感がわからず、どうなっているのか全く理解ができませんでした。東京にいる姉とはすぐに連絡を取ることができましたが、実家のある山形は停電で連絡が取れない状況でした。しばらくすると、姉の方から両親も無事だという連絡が入り、とても安心しました。その時に両親からは「こっちは大丈夫だから、心配せずにあなたは韓国の留学を楽しんで、勉強に集中してください」というメールが届き、私は好きな勉強をさせてもらえる幸せと、家族の存在の大きさを痛感しました。東北は電気も水も止まり、外の情報が入ってこないという大変な状況のなかでも、娘の勉強を心配してくれる両親には本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。その日のうちにも、クラスメイトから心配のメールをもらい、次の日の学校でもたくさんのひとに「家族は大丈夫?みんな無事だった?」と声をかけてもらいました。私はたくさんの人に心配の声をかけてもらうことで、うれしい気持ちの反面、日本の地震はそんなに大変なものだったのか…と逆に不安になりました。しかし、朝学校に着いて第一声が「家族は大丈夫?」の言葉だったので、本当に心の温かいクラスメイトに恵まれたなと実感することができました。日本に帰って来ても、西江大学のクラスで一緒だった日本人の女の子で、まだソガン大学校に残って勉強している友人から「今日の授業で美保の名前が出たんだよ。先生が「今日教室にいないのは誰ですか?」って生徒に質問したら、アルビン(台湾人のクラスメイト)が「美保氏!」って答えて、みんなで笑ったんだよー」という話を聞いて、日本に帰ってきてからもみんなが私を覚えていてくれて、クラスの話題に出してもらえることが本当に嬉しかったです。本当に短い間しか一緒にいることができなくて、もっと一緒に勉強をしたかったし、もっといろいろなことをして、いろいろな話をしたかったなと思いました。同じメンバーで顔を合わせることはできないかもしれませんが、また機会があればクラスメイトにぜひもう一度会いたいです。私はこの短い留学期間にソガン大学校のサークルのひとつ、登山部に入部しました。友達が登山に興味があり、誘ってくれたことがきっかけです。実際に道具も靴もなく、活動はできませんでしたが、韓国人の友達が増えたということがよかったなと思います。少ししか一緒にいなかった人とも、今後も連絡を取り合って、関係を続けていきたいと思っています。



↑ 韓服体験（右 2 番目、わたし）

登山部の練習風景→



6. 留学に向けて必要と感じたこと

私は今回の留学で一番残念に思うことは、自分の語彙力の少なさが邪魔をしたということです。大学で第2外国語として韓国語を勉強していたとは言っても、韓国で韓国語を使って生活するには、私の語彙や表現ではあまりにも足りませんでした。「もっと韓国語を知っていれば…」 「この表現、単語がわかれば…」 という場面が本当に多かったのです。やはり、留学をするには授業レベルでは全くと言っていいほど足りません。だからと言って、韓国語の勉強が苦痛になってしまうのは意味がないので、適度に負荷をかけて勉強出来ればいいと思います。日本では韓国語を使える場があまりないというのが現実ですが、本当にやりたいのであれば、自分の足を使って探すなど貪欲的に求めれば必ず自分の求める環境があるはずです。私も日本に帰って来て韓国語を使える場は減ってしまいましたが、大学にも新大久保にも足を運べば韓国語を使える場はあると思うので、自分から求めて動いていこうと思っています。わたしが他のメンバーと違う経験ができたと思う点は、韓国人の友達が多かったということです。ただ単に韓国語を勉強するのではなく、実際に会って話せる友達がいると、行動範囲が格段に広がります。今回の留学でも実際に、日本で出会った韓国人の友達に助けてもらう場面がとても多かったのも、現地に友達がいるというのはとても大きいと思います。また、韓国人の友達や先輩と常日頃から連絡を取ったり、関わりを持っていたりすると、「この人は韓国に興味があるんだ・もっと何かしてあげられることはないか」と友人を紹介してもらえたり、家に招いてくれたりと、自然と友好関係や行動範囲が広がっていきます。もちろん、もらうばかりではなく、友達が日本に留学中困っていたり、暇をしていたりするときには一緒にご飯をするなど、自分の方からも相手にしてあげられることを見つけていくことが大事です。お互いの国に興味を持った者同士が集まれば、協力してあげたい・何か楽しいことはないか?と考えるので、共通の関心事を持った人と友達になれば、なおさらかもしれません。何度もいいますが、大事なのは、自分から求めることです。「失礼ではないか、こんなこと出来ないよな…」と頭で考えているより先に、やってみると「意外と楽しい!やってよかった!」ということが多いです。

FaceBook も絶対必要なツールです。FaceBook では文字だけではなく、写真も見ることができる上に、自分の都合がいい時に見たり、書いたりすればいいので、生活の妨げにはならないはずです。私も韓国で携帯電話をレンタルしていましたが、いきなり携帯電話でメールを送るよりも、相手の FaceBook のアクティビティにコメントをしたり、ただ写真を見たりする方が、次の日の学校での会話も広がりますし、気軽に、意思疎通もしやすいと思います。日本にはまだ広がっていないかもしれませんが、世界では FaceBook をやっているが本当に多いので、クラスやちょっとした交流の場で複数名一緒にいる時に「FaceBook 持っている?」と聞かれて他の人は持っていて、自分だけ無い…となった時に焦るので、持っておくことをお勧めします。そして、発音を聞きながら直接会話をしたい



↑ language exchange 勉強会の日 (右 2 番目、わたし)
↑ クラスメイト (右端、わたし)

人はぜひとも Skype(スカイプ)を試してみてください。今回参加した人の中でも多くのひとが Skype をやっているそうです。Skype では、カメラで顔を見ながら話ができるので、語学勉強の最高のツールだと思います (カメラがなくても音声電話とメールのチャットができます)。私も、カメラ機能はありませんが、スカイプで韓国にいる友人と会話をしています。これからも、Skype を利用して語学勉強に役立てていこうと思います。もちろん、FaceBook も Skype も無料で加入・利用できます。

7. 留学に求めること

とてもいいプログラムだったので、他の大学もいいのかもしれませんが、特に西江大学との交流は続けていってほしいと思います。生徒一人ひとりの距離が近いので、すぐになじめると思います。西江大学校への留学の種類も、春休み 1 か月行ってみていいなと思った人のために、長期留学もあると韓国語の勉強継続にもつながるのではないのでしょうか。私自身もこの春の 1 か月間留学をしてみて、もっと長期で勉強したいという気持ちが強まりましたが、いいプログラムがないというのが正直なところです。大学が提携を組んでくれているプログラムだと、安心して利用でき、また手も伸ばしやすいので、大学を通した留学プログラムの充実を望みます。航空機の運賃が高かったなと思いました。航空運賃だけで 7 万もしてしまうと、金銭的に行きたくても行けない人が出てきてしまうと思うので、航空運賃の見直しを希望します。留学に行きたいという意欲のある学生なら、安くなった分も無駄に使うことなく、少し安くなった分を勉強に生かせるのではないかと思います。

8. 最後に

ありきたりな表現になってしまいますが、この留学で私が得たものや感動は、言葉では表わしきれません。このレポートに書ききれなかったこと、書いても伝えきれなかった感動がたくさんあります。1 か月は本当に短い時間でした。留学最初は不安と期待に始まり、半ばは楽しくて時間が過ぎるのは本当にあっという間でした。終りの方は、一日一日韓国にいれる時間が減っていくにつれてやり残したこと、お世話になった方へどうしたら気持ちを伝えられるかと、毎日必死になり、焦っていました。こんなにも充実した時間を過ごしたのは初めてではないかと思うほどです。

この留学に行くことを決心した時は、こんなにも充実した生活が送れると思ってもしなかったもので、留学を決めて本当によかったと思っています。独学で韓国語を習得することには大変なことなので、今回一緒に留学に行った明治の仲間や、友達に聞きながら今まで以上に勉強をし、韓国語を習得したいと思います。今回の留学があることを教えてくださった李先生、留学をさせてくれた家族、同じプログラムの仲間、西江大学の先生、Language exchange の 언니、韓国滞在中に支えてくれたソン君・アヨンちゃん、温かく迎えてくれたソン君のご両親、勉強が忙しいなか時間を作ってくれたソン君のいとこ、一緒に遊んだり、韓国語を教えてくれたりしたミリさん・ヘジさん、いつも一緒に授業を受けてお姉さんのように面倒をみてくれた友衣子・ローラ、いつも授業を楽しくしてくれたクラスメイトのみんな、毎週木曜日の勉強会で一緒に勉強した幸恵 언니・幸代 언니・성금先生、まだまだお世話になった方はたくさんいますが、これから日本で韓国語の勉強を続け、習得できたら、必ず恩返しをしたいと思います。FaceBook での交流や、Skype でのスピーキング練習も続けていけたらと思います。今回で会った方々とは、生涯を通して仲良くしていけたらと思います。

この留学には韓国語の語学勉強で臨んだのですが、韓国語の勉強はもちろん、それ以上に親切な方々との出会い、人々の優しさに触れ、これまでにない充実した時間を過ごし、良い経験ができました。今回の留学を通して、私は自分が本当にやりたいことを見つめることができました。その夢に向かって、学生の時間があるうちにどれだけ頑張れるか、努力できるかが大事だと思います。日本と韓国は隣の国であるのに、お世話になった方々に会いたいと思って会いに行くには時間も手間もかかります。しかし、自分が努力することで、言葉の壁だけでも取り払うことが出来れば、もっともっと身近な国になるのではないかと希望をもち、勉強し続けていこうと思います。このチャンスを逃すことなく、留学できたことを本当に幸せに思います。これは、私一人では絶対に出来ない事でした。支えてくれたみなさんに心から感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

↓クラスメイトが開いてくれた お別れ会



↓終了式後（チョン先生と明大生）





←ロッセワールドにて



アヨンちゃんと
63 ビルディングにて→

